

▼ミオカーム内服液 33.3% [内]

【重要度】★★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】ピラセタム piracetam 【分類】ミオクロウヌス治療剤

【単位】▼33.3%液

【常用量】1回12mL（ピラセタムとして4g）を1日3回3～4日間経口投与し、その後状態に合わせて1回3mLずつ増量し至適用量を決定する〔最大1回21mLまで〕

【用法】1日3回

【透析患者への投与方法】禁忌（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】Ccr 40～60mL/min：50%に減量，Ccr 20～40mL/min：25%に減量，Ccr 20mL/min 以下：禁忌（1）

【特徴】環状γ-アミノ酪酸（cyclic GABA）の誘導体でミオクロウヌスの治療に適用。

【主な副作用・毒性】白内障，白血球減少，血小板減少，眠気，倦怠感，消化器症状，肝機能異常，熱感，発汗，女性化乳房など

【吸収】Fは食事の影響を受けない（1）

【F】100%（1）

【tmax】1hr（1）

【代謝】代謝されない（1）

【排泄】尿中未変化体排泄率93%以上〔48hr まで〕（1）

【CL】5～6L/hr（1）

【t1/2】5hr（1）4.3hr（Saletu B, et al: Int J Clin Pharmacol Ther 33: 249-62, 1995 PMID: 7655763）腎障害患者で延長し，高度腎障害患者では2日以上（1）

【蛋白結合率】5%以下で高濃度でさらに低下（1）

【Vd】45L/man（1）

【MW】142.16

【透析性】4hrのHDで除去率46.73～61.80%（1）

【薬物動態】個人差は加齢以外の要因が大きい（Platt D, et al: Arzneimittelforschung 35: 533-5, 1985 PMID: 4039575）

【O/W 係数】0.0221〔1-オクタノール水系，pH7〕（1）

【相互作用】甲状腺ホルモン製剤併用で錯乱，過敏状態，睡眠障害が出現した報告あり（1）

【主な臨床報告】めまいの治療に有効（Arhami Dolatabadi A, et al: Arch Acad Emerg Med 2019 PMID: 30847444）

【更新日】20191031

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。